

令和7年度 園芸科「農業選択 果樹」シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	園芸科 3年 A組
教科書	果樹（実教出版）	副教材等	教員作成資料（プリント等）

1 学習の到達目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、果実の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 果実の生産と経営について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 果実の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 果実の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	第3章 果樹栽培の基礎	基本となる栽培管理技術	(1) 摘蕾・開花・人工授粉 ナシの受粉・開花特性を理解する。	行動観察 圃場実習評価 ノート 定期考査
5			(2) ネット張り ナシネット設置の意味を理解し、病害虫・気象災害防除の大切さを理解する。	
6		中間考査	(3) 摘果 ナシの着果特性と摘果の目的を学習し、摘果法を理解する。	
7		期末考査	4) 病害虫防除・気象災害防止 ナシを中心とした果樹の病害虫を理解し、その防除法や防除機械等を学習する。 (5) 花芽分化 ナシ（果樹）の花芽分化特性を理解し、特性を利用した栽培法を習得する。 (6) 袋掛け 袋掛けの意味を学習し、果実に対する市場での評価を理解する。	
9	第2章 果樹の成長と果実生産	収穫と調整	ナシの収穫法と調整法を学び、果実の価値や需要等を学習する。	行動観察 圃場実習評価 ノート 定期考査
10		各器官の成長と果実生産		
		果実の利用と果樹栽培	果実の肥大・収穫・貯蔵・加工を学び、果樹の生理を理解すると同時に、品種による肥大や貯蔵性・加工まで理解する。	
		果実の生産と消費の動向		
11	第1章 果実の生産と利用	果樹栽培の適地	果実の特性と利用法を学び、多角的な果樹の価値を理解する。	行動観察 圃場実習評価 ノート 定期考査
		中間考査	果実生産の推移と消費の動向を理解する。	
		病害虫・生理障害	日本における果樹生産地を学習し、気候、土壌等の栽培条件を理解する。 また各果樹の原産地を学習し、果樹の基本的な生育条件を理解する。	
		期末考査	学園祭での発表により、自主的な学習態度を養う。	
12	第3章 果樹栽培の基礎	期末考査	果樹の病害虫や生理障害について学び、予防法や対処法を理解する。	

1	果樹の栽培管理	生育と栽培管理	作物の休眠やナシ等の果樹の剪定管理を学習する。 GAPの基礎的な内容について理解させる。	行動観察 圃場実習評価 ノート 定期考査
2		学年末考査		
3				

3 評価の観点

知識・技術	果実の生産と経営に関するプロジェクト学習を通して、果樹の生理・生態や生育環境などの果実生産に必要な知識と技術、果実生産の計画、管理、評価などの果樹経営に関する知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けている。
思考・判断・表現	果実の生産や経営に関して、生産技術や生産工程、経費や流通・販売方法などの生産や経営に関する課題を発見し、地域の果樹経営の実践事例や果実生産が果たす社会的な意義と役割などを踏まえるとともに、環境への配慮や法令遵守など、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力が養われている。
主体的に学習に取り組む態度	果実の生産と経営の学習を通して、果実生産が人々の暮らしを豊かにする素材を提供し、生活環境を創造するという社会的な役割を担っていることを理解し、品質と生産性の向上を図るとともに、安全で安心できる果実の生産と経営を目指し、その振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が養われている。

4 評価の方法

「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から、評価基準に従い総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ

安全面は重要です。怪我防止の観点からも、実習服等の着用をきちんとしましょう（授業規律）。 出席状況を重視します（出席重視）。 自らよく考え、的確に判断しながら行動しましょう（的確な行動）。 ノートの提出をしましょう（提出物はきちんと記入し、提出）。
--